

『日本企業の長寿要因および示唆点』に掲載されている「200 年以上の老舗世界ランキング」の表があります。これによれば、世界で 200 年以上の老舗は 5586 社 (合計 41 か国) ある中で、その 3146 社 (全体の 56 パーセント) は日本にあり、日本は断トツの世界ナンバーワンの老舗大国であることが示されています。第 2 位ドイツ 837 社、第 3 位オランダ 222 社、第 4 位フランス 196 社、第 5 位アメリカ 14 社、第 6 位中国 9 社、第 7 位台湾 7 社第 8 位インド 3 社、その他 1152 社で韓国は 0 社となっています。韓国は近年、政治面ではますます反日政策を強めています。本音では一日も早く日本のような老舗が多く存在する国家になりたいという願いを抱いているのです。この願望は韓国だけではなく、実は中国でも、東南アジア諸国でもいや欧米の国々でさえもそうなのです。老舗をはじめファミリービジネス群は、従業員・顧客を大切に、長期的に業績を上げていく態度を保持していることから、社会の秩序保持に貢献し安定した社会を維持していく上で、大きな役割を果たしていることが改めて見直されたのです。日本にはファミリービジネスは 586 万社あり、全事業所数の 99.1 パーセントを占め、全従業員数の 86.2 パーセント強の 5059 万人を雇用していることとなります。つまり、働く国民の 86 パーセントがファミリービジネスに所属しているということとなります。この数字は、日本の大企業はファミリービジネスの支えがあってこそ成り立っていることをよく表しています。ところが日本のマスコミは企業情報を伝える場合、あまりにも大企業中心に偏っています。大企業からの広告収入で経営が成り立っているマスコミとしては、そうせざるを得ないのかもしれませんが。私の経験から言えることは、ファミリー企業の経営者も社員もその多くは仕事熱心で謙虚な人たちです。一方、大企業のサラリーマンの中には、実力以上にプライドが高く、組織の力 (名刺の力) に頼って生きている人がかなりいます。100 年から 200 年以上も続く老舗が、どうして日本に多く存在するのでしょうか? その要因は、次の二つを日本の老舗は頑なに守っているからです。

第一は、我が国ではどんな時代にも「継続していることが信用を形成するための第一条件」という考え方が重んじられており、老舗はそのことを骨の髄まで自覚していることです。「継続は力なり」は、目標に向かってコツコツと地道に努力を続けることの大切さを訴える言葉です。多くの日本人は継続することの難しさを知り、だから継続している人や会社に敬意を抱くのです。我が国には自分が決めた一つの道を黙々と生き抜くことを讃える価値観が昔からあります。そして自分の念い (願い) の実現に向かって真剣に努力を重ねていく人を評価し、受け入れる寛容さが社会に存在しています。

第二は「人の行く裏に道あり花の山」の言葉どおり、人のやらないことやりたがらないことをやり通すという気持ちを老舗ほど持っていることです。世の中の 8 割の人は楽な道を選びます。苦勞する道を選ぶ人は 2 割足らずです。あえて人の逆を行く道を選び、少数派としての孤独感を抱きながらも独自の専門を確立し、他人がやりたがらない面倒なことを一つひとつ丁寧にやっている人は、事業主として成功していくタイプです。老舗の経営者も従業員もそういう人が多いのです。

東洋のペスタロッツと言われた教育者東井義雄先生の言葉がある。「本物は続く、続けると本物になる」100 年、200 年と続く老舗も本物だからこそ生き残るし、長く続くからこそ信用がある。その場限りの儲けや、自分だけの損得で動いていたら 100 年続くわけがない。そこには、常に周囲の喜ぶことをする姿勢、お客様も従業員も大事にする姿勢、誠実さや正直や勤勉さ・徳を積むといった姿勢がある。「継続は力」であり、「信用」だ。逆に言えば、何事も長く続かない人には信用がない。そして、継続することは頭の良し悪しや学歴エリートや非エリートとは無関係で、誰にでもチャンスはある。何か一つ決めたことは倦 (う) まずたゆまず黙々と長く続ける人でありたい。

Q 1 : 百年以上続く会社日本に多い二つの理由は何ですか?

A 1 : ( )

Q 2 : ブレイングループが、百年続くためのアイデアは何ですか?

A 2 : ( )